

がんの薬物療法について

がんの主な治療法は「手術療法」「放射線療法」「薬物療法」があり、単独で行うこともあれば、これらを組み合わせて治療することもあります。

薬物療法は、がんを治すこと、進行を抑えること、症状を緩和することを目指して行います。どの目的で行うのか、がんの種類や進行度、患者さんの体調などに応じて治療薬は選択されます。

治療薬には「細胞障害性抗がん薬」「分子標的薬」「内分泌療法薬(ホルモン療法薬)」「免疫チェックポイント阻害薬」などの種類があります。これらの治療薬(抗がん剤)には様々な副作用があり、その副作用症状をやわらげるお薬が使用されることもあります(支持療法)。

薬剤師は薬の専門家として、医師、看護師、患者さんと協力して、副作用症状を抑えながら生活の質を保ち、治療を中断せずに続けることができるようにサポートします。不安なことがあれば、いつでもお気軽にご相談ください。

こんなことでお困りではないですか？

- これから投薬を受けるがんの治療薬の副作用が心配
- がんの治療薬の副作用予防薬について詳しく聞きたい
- 薬の飲み方について相談したい
- いままで飲んでいる薬とがんの治療薬の飲み合わせが大丈夫か相談したい
- インターネットで抗がん剤について調べたがよく分からなかったので説明してほしい

私たちが相談にのります

薬剤師がお薬の説明を行います。

がん相談支援センターでもご相談できます。

説明資料はこちら

詳しく知りたい方はこちら

がん情報サービスの冊子

※各がん種の冊子をごん相談支援センターで受け取れます。



国立がん研究センター
がん情報サービス
「薬物療法とは」

